

## 論文

## エンブroidリーレースのジャパंकオリティードザイン展開

神宮寺勝紀\* 北原 浩\* 嶋 明\*

The development of Japanese Embroidery Lace Designs

Katsunori JINGUJI, Hiroshi KITAHARA and Akira SHIMA

**Abstract** In order to develop Embroidery Lace designs we investigated and analyzed different kind of production, processes and characteristics of lace, as well as traditional Japanese designs, such as Kosode, Yuuzen, Noushouzoku and Isegata. Embroidery Lace permits the production Chemical Lace and other styles of lace that have a depth that other types of lace can not produce, However, we also were able to discover that Embroidery Lace production is expensive and difficult. When it comes to the designs, most of them are of plant and flower types, and designs that use more than two objects are greater in number when compared to those that use only one. Based on what this finding, we tried to make a change in the plans of the designs. But from the cost point-of-view, it is difficult to employ other designs such as those from kimonos directly as the material for Embroidery Lace. This is because the designs are made specifically for Kimonos. Nevertheless, we discovered that it is still possible to effectively make Embroidery Lace designs by using traditional designs, This was possible due to careful selection of appropriate designs, renegotiating the original ones and rearranging and adjusting the direction of the designs.

**Keywords** Embroidery lace designs, traditional japanese designs, Kosode, Yuuzen, Noushouzoku, Isegata

## 1. はじめに

エンブroidリーレースのデザイン展開は、今までほとんどヨーロッパレースの模倣であるため、技術的に優れていても、ヨーロッパ製品を越えることが出来ない。グローバルな製品展開をはかるには、企画力、デザイン力をつけ、独創的なデザイン開発が急務となっている。そこで、欧米にないデザイン、新製品開発と企画担当者の育成支援のため、日本古来の伝統柄をモチーフとして、ジャパंकオリティードザイン展開をして、次のことを行った。

## 2. 内容

## 2.1 エンブroidリーレースの調査、分析

エンブroidリーレースへのデザイン展開をはかるために、レースの種類、製造工程、特徴について調査、分析を行った。

## 2.1.1 種類

レースには色々な種類があり、手法、機械、工程などによって分類されている。現在市場に出回っているレースを区分すると次の4種類になる。

・刺繍レース(エンブroidリーレース、ミシン刺繍、多頭

ミシン、手刺繍、日本刺繍、中国刺繍など)

- ・より、からみレース(リバーレース、リボンレース、チュールレース、ポピンレース)
- ・編みレース(ラッセルレース、模様編みレース、模様編みレース以外のものネット、パイル)
- ・組レース(トーションレース)

## 2.1.2 製造工程

デザイン - 準備(刺繍糸、生地、裁断、縫い合わせ) - 刺繍 - 整理(精練、漂白、染色、検査、包装、裁断など) - 出荷

## 2.1.3 エンブroidリーレースの特徴

エンブroidリーレースの長所、短所として次の点があげられる。

- ・他のレースより立体感(ボリューム)をだしやすい。
- ・ケミカルレースができる。
- ・カットワークを使った美しいレースができる。
- ・他のレースと比較してコスト高である。
- ・インテリア製品(特にカーテン)は柄あわせのため生地口スができる。

## 2.2 欧米と日本のレースの比較

- ・欧米のレース<sup>1)</sup>は伝統に裏打ちされた技術とデザインの蓄積がある。

\*アパレル技術グループ

・コスト面での考え方の相違がデザインに影響を与えている。

2.3 収集レースのレース専用意匠紙への置換，保存  
収集したレースをレース専用の意匠紙へデザインを置換し，保存をした（図1，図2）。

・ステッチの方法には色々あるが，工場によって呼び名はかわってくる。

ストレートラインステッチをはしり，サテンステッチをもち，あつみなどと，工場の技術者などによって呼び名も様々である。また，細かなことはデザイナーが工場の現場で技術者に用途やイメージを伝えてステッチやレースの種類をきめている。

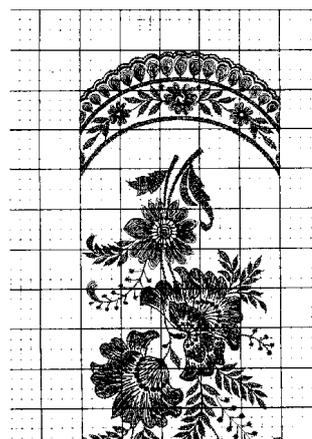
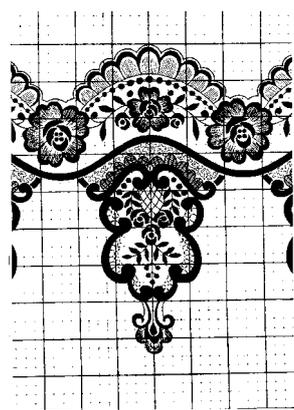


図1 収集レースのデザイン 図2 収集レースのデザイン

### 2.4 日本伝統柄の調査，分析

488点の資料<sup>2), 3)</sup>を収集し（小袖63点，友禅39点，能装束48点，伊勢型338点），次の6種類（植物，動物，幾何，自然，器物，その他）に分類，整理をした（表1）。

- ・植物柄が大半を占め，幾何学柄は伊勢型に多く見られる。
- ・単独柄よりも2種類以上の組み合わせが多い。

表1 収集した資料の内訳

	点 数	%
植 物	258	53
動 物	59	12
幾 何	87	18
自 然	46	9
器 物	27	6
そ の 他	11	2

資料数 小袖 63点 友禅 39点 能装束 48点  
伊勢型 338点 合計 488点

### 2.5 日本の伝統柄から基本デザイン作成

植物柄の中でも松竹梅のモチーフは41%を占めている。松竹梅は，吉祥柄として多く用いられていることと，レースデザインとして転用しやすいことの両面から，これらの柄をレースデザインの基本柄とした。

- ・桜，菊，牡丹をモチーフとして基本デザインを作成（図3，図4，図5）。

・吉祥柄として多く用いられていた松，竹，梅をモチーフとして基本デザイン作成（図6，図7，図8）。

・器物，動物，自然などをモチーフとして基本デザイン作成（図9）。



図3 桜丸



図4 菊唐草

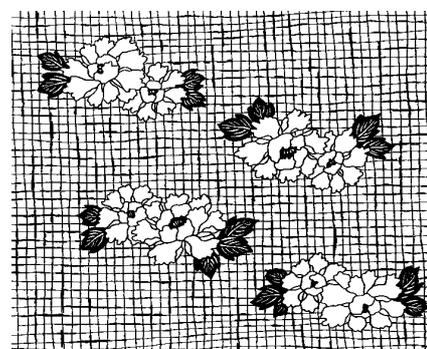


図5 牡丹

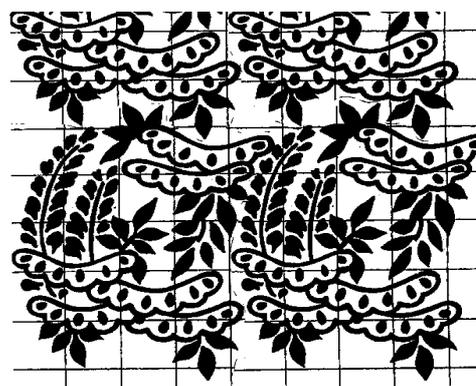


図6 松と藤

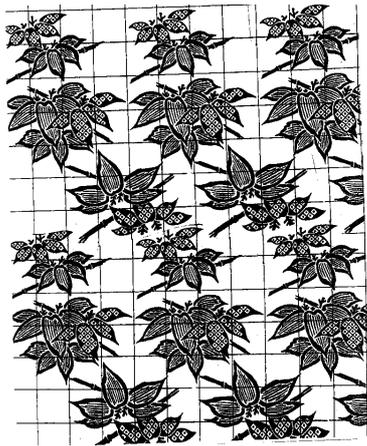


図7 竹

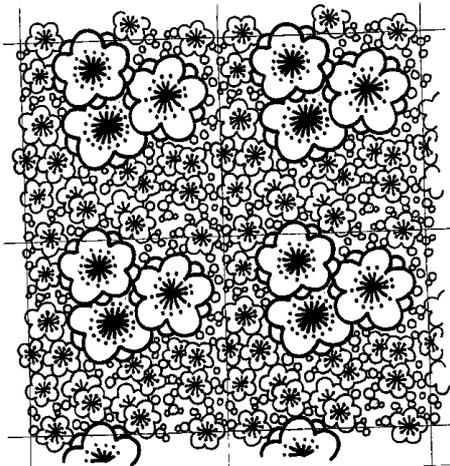


図8 梅

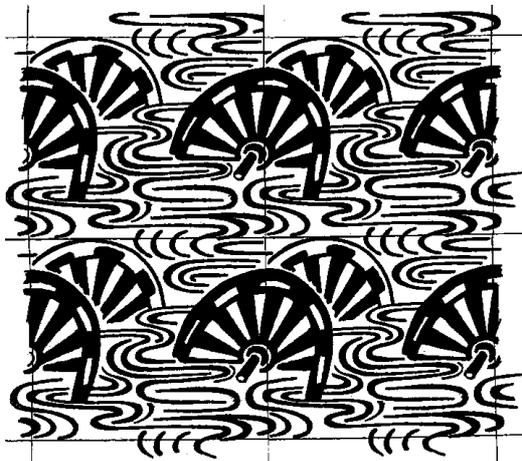


図9 御所車

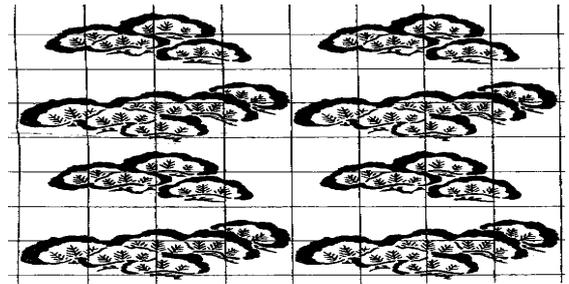


図10 基本デザイン - 松

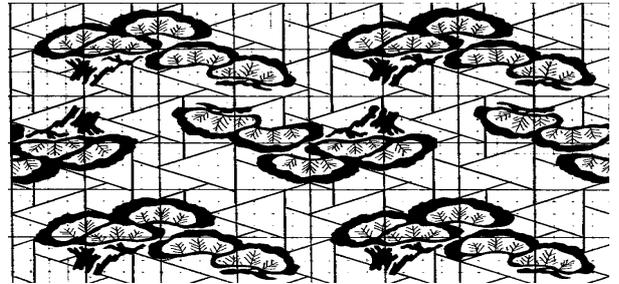


図11 レースデザイン

### 2.7 製品化への対応

製品化の流れとしては、次のように資料の中から柄を選定して、それらを基本(下絵)デザインとしてレース用の意匠紙に置き換えて、製品となるようなデザインとした。

(図12~図15)

- ・レースデザインの中から広幅レース、テーブルセンターなどに適した柄を選定して製品化を行った(図16, 図17)。
- ・下絵として作成した基本デザインからレースデザインとして、桜唐草, 梅立涌, 菖蒲などの植物柄, 氷竹文, 格子, 鱗繋ぎなどの幾何学柄を製品化した。
- ・菖蒲, 氷竹文また梅立涌のデザインを服として仕立てた。(図18, 図19, 図20)。



図12 小袖

### 2.6 基本デザインからレースデザインへ展開

下絵として作成した基本デザインをエンブroidアリーレースの意匠紙に合わせて、レース向けのデザインとして展開をはかった。

- ・吉祥柄の松と幾何学柄を合わせ、レースデザインを作成。(図10, 図11)
- ・コスト的なものも考慮して1インチ~4インチの範囲の中でデザイン展開を行った。



図13 基本デザイン

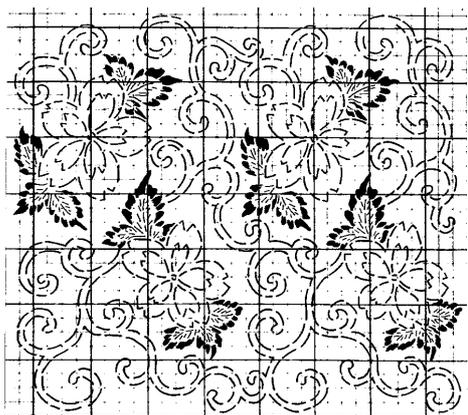


図14 レースデザイン

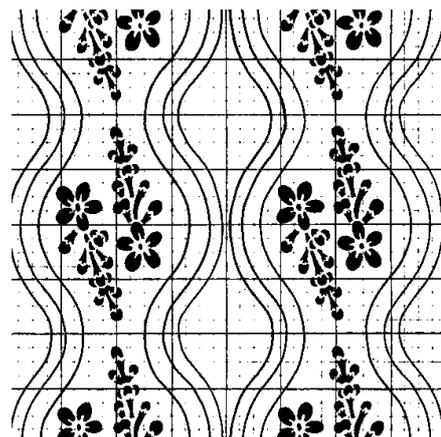


図19 梅立涌のレースデザイン



図15 レース製品



図18 スカート,タンクトップ



図20 ワンピース

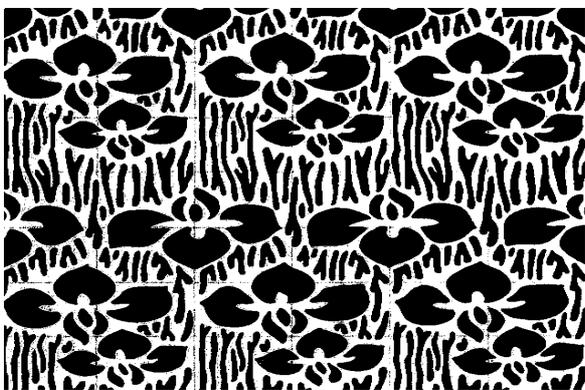


図16 菖蒲のレースデザイン

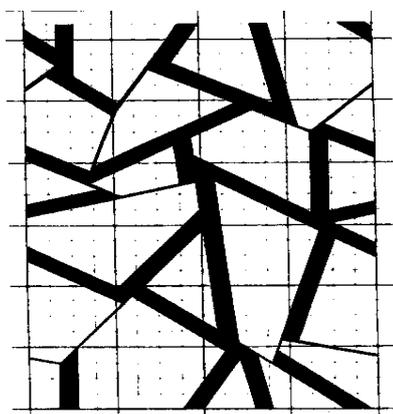


図17 氷竹文のレースデザイン

### 3.まとめ

日本伝統柄の中でも使用頻度が高い松竹梅を応用して、基本・レースデザインを作成し、欧米のレースには見られないデザイン開発、新規性のある製品となった。

しかし、コスト面からパンチングしやすく製品化に対応しやすいことなどから、幾何学柄や、その要素を備えた柄が多く選択されたことを考慮すると、伝統柄の良さを十分にエンブroidリーレースとして生かしていけるかが今後の課題として残った。

### 参考文献

- 1) ヨーロッパのレース芸術：品川区立品川美術館
- 2) 伊勢型（上・中・下），染織の美3，友禅染，染織の美4，能装束，染織の美21，江戸の小袖：京都書院
- 3) 文様事典：東京堂出版

（原稿受付 平成14年8月1日）